中国四国教育学会　教育学研究紀要　第39巻　第2部（1993年）

ネパールの体育教育の実情（Ⅲ）

――識字教材開発研究ワークショップを通じて――

松　岡　重　信
（広島大学）

はじめに

Ⅰ，Ⅱ報では，ユネスコ・アジア太平洋地域協力事業として，広島大学ユネスコ識字教育事業委員会の派遣事業および現地からの通信情報に基づいて，ネパール王国の体育教育の事情を把握しようと努めてきた。海外青年協力隊員として，1～3年ネパールに滞在し，体育指導を勤めた若い経験者達の記録や経験話を総合しても，教科としての「体育科」や「健康科（保健）」の実態は，必ずしも確立されたものではないし，相当に複雑で整理できていない。しかし，概略的にいえば諸外国の援助や協力もあって，初等学校における体育科（Physical Education）は，低学年で「理科＋掃除＋体育」という未分化な，逆に表現すれば「合科教育」的性格をもちながら，徐々に体育教育らしさが模索されつつあると表現できる[1)2)]。

ネパール王国は，小面積国といえども人種の坩堝といわれ，まさに多民族・多宗教国家である。その教育事情や体育事情は地域によって大きく異なると考えるのが普通である。学校制度自体が必ずしも確立されていないことも併せて考えれば，ある教科領域と考えられる部分が確立されていく過程には極めて興味深いものがある。

本稿では，1993年6月中旬に広島大学学校教育学部を会場にアジア7カ国から招聘された各国（インド・ネパール・バングラデッシュ・インドネシア・フィリピン・タイ・中国）の代表者（表1参照）と識字教材開発事業が実施された。特にわれわれは，ネパール・バングラデッシュの代表と「健康」「体育」の領域で教材開発研究を行ったが，その開発過程で問題として浮上した幾つかの事項を整理しながら，特にネパールの体育教育の事情を理解し，記録として残そうとしているものである。

なお，この度の「健康・体育」領域の識字教材開発研究には，広島大学教育学部より佐藤　裕教授と松尾千秋助教授が共同参加された。また，途中から3ヶ日ではあったが，青年海外協力隊員として，ネパールの各地に3年間滞在した経験をもち，現在長崎大学教養部勤務の金田英子女史の協力が得られたこと，さらに現在カトマンズ滞在中の古賀伸也氏の間接的協力も附記しておく。

Ⅰ　識字教材開発に関わる諸問題

この度の識字教材開発事業で，何故ネパールやバングラデッシュが「健康・体育」の領域を希望したかは，われわれが直接関知しえない側面をもつ。ただ，ネパールとは2年前の訪問時に世話になった組織（CTSDC, 1993年改称されて Curriculum Development Center; CDC）と人脈を通じて「体育」の領域でコンタクトをもってきたことが背景としてある。そして，現実的にはバングラデシュも一緒にやれという大学委員会側の都合によるものと理解された。

また，本プロジェクト出発点において，広島大学ユネスコ識字教育事業委員会で申し合わされていたことは，各国の初等教育の，それも特に都市部ではない，地方の初等学校低学年を対象とした「掛図」10枚程度の開発という限定的な前提条件があった。さらに，この掛図を作成する過程での討議を通して「教材開発」の手法を相互に研究・学習しあうというのも大きな目的の一つとされていた。準備期間の長短もあり，ネパール代表とバングラデッシュ代表とは必ずしも同等に扱えないため，ここではネパールに限定しながら以降論を展開する。

教材開発事業には表1のメンバーに日本から広島大学学校教育学部・教育学部から各々の担当教科領域代表者数名が参加した。4領域にわたるものである。われわれのチームとしての準備状況は，大きくはネパールを対象にしていた。表2の日程に従って事業は展開されたが，途中で幾つかのバリエイションが加えられたものもあった。

最初の数日は，参加者の相互理解とネパールおよびバングラデッシュ2カ国の教育・体育・健康教育の状況把握のための討議に時間が費やされた。ここで明らかになった2カ国の相違点は，経済状況・教育状況や制度それ自体に大差は認められないのに，バングラデシュはスポーツ導入（ルールやその解説図）に固執し，

表1　参加各国代表者

国　名	参加者名	年齢	性別	開発領域
バングラデッシュ	Ekram Ullab Chowdhury	55才	男性	健康体育
中　国	康　印　瑞	44	女性	自然環境
インド	Suman Karandikar	50	女性	環境社会
インドネシア	Mudita A.K.	―	男性	算数
ネパール	Gajendra Lal Pradhan	56	男性	健康体育
フィリピン	Lidinila M. Luis-Santos	57	女性	自然環境
タイ	Somporn Munthananucht	―	女性	算数

表2　H5ユネスコ識字教材開発研究日程
（広島大学学校教育学部於）

	午　前	午　後	夜
6/15	アジア7カ国より来広　宿舎(広島市弥生会館)入り		
6/16	―――	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　全体会	ﾚｾﾌﾟｼｮﾝ
6/17	教材開発（情報交換）	問題状況把握（領域別作業）	
6/18	教材開発（掛図ｲﾒｰｼﾞ） （付属東雲小の公開授業参観）	掛図ｲﾒｰｼﾞ案	
6/19	掛図ﾃﾞｯｻﾞﾝ、ﾏﾆｭｱﾙ作成，全体会(進行状況)，美術科担当者と打ち合わせ		
6/20	自由日（英語科大学院生等が相手）		
6/21	国別教材開発	現地版の掛図修正・ﾏﾆｭｱﾙ	
6/22	現地版のﾃﾞｯｻﾞﾝ	掛図12枚と現地版（ｶﾗｰ印刷）	
6/23	全体会　閉会行事（ﾌｨｰﾙﾄﾞｻｰﾍﾞｲの打ち合せ）	―――	

ネパール代表は「衛生」や「健康」と「道徳」性を教科領域の内容を素案として準備していた点である。これは，代表の立場の相違によるものかも知れない。

また，彼らの年齢や職業上の地位（共に文部省関連機関の Joint secretary と Under secretary）や性格も関連してか奇妙に発言が偏っていった。また，通訳の留学生の協力をあおいだりもしたが，彼らの日程も思うにまかせず，われわれの不自由な英語によるコミュニケーションは必ずしも十分なものではなかった反省が残されている。

われわれの事前の提案（素案としてのスケッチとスケッチの意図）もネパールからの参加者には古賀氏を介して提示されていたが，バングラデッシュ代表には参加人物特定が遅れた事情もあって提示されていなかった。この点に起因すると思われる，多少チグハグな側面が討議の当初から観察された。

Ⅰ，Ⅱ報の状況から推察して，バングラデッシュは肥沃な大地に恵まれた国家ではあるが，独立後の歴史が浅く必ずしも安定した状態にはない。ネパールは基本的には山岳国家で，王政がひかれている。また，半ば周辺国（インド）に対しては政治的にも鎖国状態にある。

共通する点は，両国ともにアジアの最貧国の一つと考えられる点で，ユネスコやユニセフ等の援助をもとに教育開発の進められつつある，いわゆる教育の発展途上国である。一般論として，教育普及の途上でまず重視されることはいわゆる「識字教育」であるが，両国ともにこの段階であるだけに，ある意味では非常に重要な局面にあるといえる。「教育の普及」や「教育の義務制度化」の問題に至る前に，表3のユネスコ資料はこの状況を端的に示している。これは1992年版でネパールの非識字率を年齢階級・性別・都市－地方別で示したものである。

表3　ネパールにおける年齢階級／居住区別非識字率

年齢階級	総非識字率		男性非識字率		女性非識字率	
	都市部	郡部	都市部	郡部	都市部	郡部
10 - 14	32.4%	63.2%	26.1%	50.8%	39.9%	77.7%
15 - 19	35.9	68.6	27.0	53.8	46.5	85.2
20 - 24	42.5	76.0	30.1	60.8	56.0	89.7
25 - 34	49.4	80.8	35.3	68.2	65.1	92.7
35 - 44	59.5	85.4	45.3	76.2	76.5	94.9
45 - 54	66.1	87.9	52.6	80.9	83.2	95.9
55 - 64	72.4	89.2	60.5	82.9	87.8	96.3
65+	76.3	90.3	65.7	84.8	89.3	96.5

＊出典はユネスコ文化統計年鑑(1992)[3]

表3が示すところは，比較的低年齢層の識字率に比して，いわゆる母親であり，父親である年齢層以上の識字率が極めて低く，また男性に比して女性の識字率が非常に低いという現実を示している。(非識字率が高い）さらには，都市部と地方（田舎）との差異がこと「識字」に関しては極めて大きいという事実である。地方では，学校施設の未整備も教師教育の不備（教師訓練期間1年程度）も，また教育そのものの必要性に関しての認識すらも育まれていない傾向と可能性が感じられれた。

学校教育のシステムが形成されつつある過渡期状況にある故に，研究対象地域としても格別に関心のもたれるところである。相対的に都市部では様々な影響をうけながら，私学も存在して教育もシステム化されつつあるといえる。しかし，地方田舎では人々の情報や交流範囲も限られているためか，交通手段や生産手段にもよるが比較的に閉じられた生活様態にあることが推測される。また，時折報道される特別番組（ＮＨＫ等）もこのことを裏付けている。

Ⅱ　識字教育における「体育・スポーツ」の役割

一般に識字教育は，基本的には「読み」「書き」「計算（そろばん）」にかかわる3R'Sを意味している。ここに体育やスポーツが挿入される由縁は，現時点では次の二つの理由が考えられる。

1）ネパールにおいて今日までに形成改善されてきた教育のシステムの中に，日本とは制度的・歴史的には異なるが，該当教科が一応設定されている

こと。

2）学校の教育方法が，物的・人的制約によりものであろうと推測されるが，相当に画一的で「説明→暗唱・暗記」の強制的な性格を濃厚にもつとされる。その性格的特徴が結果として「学校は面白くない」とか「ドロップ・アウト」を誘発する多くの原因のうちの一つをなしているとみなせること。

この二つの特徴は,「体育科」や「保健」は識字教育そのものではないが，子ども達を学校にひきもどすとか，国民的教養として「健康」や「体育」に関する技能や知識を教授するとかの役割を，一応期待されているものと考えて差し支えない。すなわち副次的役割が現時点では大きい可能性が高い。つまり「健康」や「体育」は「識字教育」そのものではないが,「識字教育」を直接・間接に支え，学校を魅力ある場所とする役割をも期待されている。特に子ども達に学校で「一緒に遊ぶ」とか「一緒に・・・する」という「まじわりとその関係」をベースにした教育の効果を期待し，そのことを基盤にして識字効果をも向上させ，識字率向上の実をあげる役割をも期待されていると，われわれは理解してきた。

体育遊戯活動でもゲームで「人数や点数を数える」とか「勝ち負けの決定方法の合意とルールの形成」・「どのような状態が不衛生とか不都合」とか「状態の説明や表記」といった具体的指導内容と，子ども達への教育的要求の中に「識字」のかなりの部分が内在され，また重複されているとみなせるからである。

Ⅲ　「健康」「体育」領域の教材（掛図）開発の手順

1）基本的構成としての生活の同型性

物的に貧しいとか，ＧＮＰ個人高が年間200＄程度とか，マスコミ関連機器の普及率が日本と比して異常に低いとか，王政がひかれているとか，自動車やバイク・自転車などの運転のマナーがむちゃくちゃであるとか，……生活の表面は確かに筆者自身の目でも観察したが，生活を営む形態は基本的に同型性があると考える。

つまり食物を摂取し，労働や経済行為を営みながら，村落での楽しみごとも時折あって，人々は家族を形成して，大人や年長の子どもは働き，小さい子ども達は基本的には学校へ通う（？），家族が多くて大変らしいとか……このレベルでは同じなのである。日本との比較では，ネパールの生産効率や経済効率が異なるのであり，ネパールのそれらが非効率とみなせても，また生活様式が不衛生とみなせても，これらを一気になんとか「できる」とか「何とかなる」とかは外的圧力や外的影響だけでは不可能である。しかも，基本的には越権行為に相当する可能性すらある。

政治問題や王政批判となればそれこそ内政干渉……という論理になるし，またそんな力も義務もわれわれは与えられてもいない。だから，狭くて暗い教室とか，貧弱にみえる教科書や異なる数字とか，詰め込まれて座位の姿勢で勉強するとかの風景は日本と明らかに異なっていたが,「学校は勉強をするところ」とか「若干の休憩時間」も準備されているとかでは同型である。

識字教材開発を「健康」「体育」的教科の側面からアプローチする際，また都市部ではない地方の小学校低学年対象という限定は，開発研究の当初にはさほど意味をもたなかった。むしろネパール代表の状況説明に時間を費やしたが，問題状況は幾つもありながら，教科課程編成上のスコープやシークエンス論に整理する作業が現実には困難であった。そこで問題状況を整理しながら，その問題の構造を以下のように再把握した。

2）教材開発モデルとしての考え方

生活形態の同型性と，異なる習慣・文化，異なる宗教との関連性は我々が思う以上に重要な視点である可能性は否定できない。しかし，ネパールにも外来文化や国際交流は漸増しており，またユネスコやユニセフの働きかけもある。本質のところで「愚民化政策」が存在し得る可能性は否定できないまでも，民主化運動は相当拡大強化されてきている。その証拠に1993年の４月にも首都カトマンズを中心に大規模なゼネストが展開されているという報告を受けている（古賀氏)。

それでは，地方の状況はどうかといえばほとんど情報は得られていない。基本的には農業中心の貧しい生活が展開されていて，生活は苦しいが家族関係や村落単位の統治機能はしっかりしていて，いつも祭礼がどこかで行われていて，貧しいが案外悠々たる生活なのかも知れない。

ネパール代表のもたらせる情報では,「衛生」や「体育」に絡まる問題状況は，大きく生活習慣と生活そのものと運動やスポーツ活動に分けて次のような事象が報告された。

- 例えばバナナは必ずしも主食ではないが，それに近いほどよく食べられる。また，かなりの高地でありながら，よく栽培されている。子ども達も好んで食べるが，その皮はところ構わずポンポン捨てる。
- 貧弱な学校施設の故か，公共精神の未熟の故か判別できないが，掃除を余りしないし，公共のものを大切にしないという。事実日本では国宝クラスと思われる寺院や仏閣に多くの人々が住みついて，煮炊き

している状態は視察時にも観察された。

- スポーツでいえば，確かにサッカーやバレーボールは，都市部では比較的ポピュラーなものであるとされる。しかし，一般的にはカバディーや年少の子どもの世代では，ドウワイ，カーサー（Dhywai, Khasa）とよばれるような日本の「陣取り」,「石けり」ゲームに似た遊びなどが一般である。ボール・ゲームなどはまずない。
- 教室の黒板(といっても縦１m,横１m半ほどの板)を拭くようなような習慣を子どもに達にネパールでは身につけさせようとしていた。これとは反対にバングラデッシュの代表はそれは教師の仕事であると断言する。
- ボールや遊び用具の作り方についても議論したが，さほど興味を示さなかった。
- タバコは男性に限らず，女性それも妊婦でも子どもでもたびたび吸う。しかも，その吸い方は徹底していて，根元（吸い口）を手でまるめて出来るだけ残さないように吸い尽くししてしまう。禁煙教育は大きなテーマである。
- 人口問題もある。中央部ポッカラや首都カトマンズに流入する人口も多く，そうした街でも大きな産業や職業的基盤がある訳ではない。
- 障害をもつ人々も，極自然な状態で家族や地域社会の中に生活している。

Ⅰ Life Working Social Tecnology	Ⅲ Natural movement Exersize Play
Ⅱ Health Hygiene Security	Ⅳ Sports Game Sports movement

図１　教材開発モデルとしてのサブ領域構成案（1993）

等々である。また，こと「健康」や「体育」については,「知識」「スキル」「態度」のような項目を重視する傾向は両代表者にもみられた。そこで，これらの議論に基づいて以下図１のようなアウト・ラインからなるモデルが構想された。この案は，まずモデルを作ったのではなく，議論の経過の総括として，またネパールとバングラデシュの代表の考え方の差異を明確にするためのモデルでもあった。

結果としてみれば，やや脈絡に欠ける感もあるが，鍵概念として「共に……しよう」という標語めいた‘・・・・・ing Together’をテーマに選択して,「目的」の明示,「用語や基本的概念」・「示唆的な質問」「学習活動」という教師ガイドが統一形式の「委員会基本マニュアル」に沿って作成された。われわれが共同で開発した「掛図」は次のようなものである。(図２参照)

図２　開発教材事例（表４のH.Chart－８）

３）具体的開発掛図の例

表４は上記‘・・・・・ing Together’のテーマにそって開発された「掛図」12枚分の教師用マニュアルである。また，図２は開発「掛図」の１例である。ネパールもバングラデッシュもこれらをすべて採用したのではない。

図２は，表４のH（Chart－８）と対応している。婦人が煙草の根元を手の平で包み込んですっている様子を示している。この姿を「カッコいいと思うか？」「いい香りがするか？」「身体にいいと思うか？」と発問することで子ども達の反応を見ようとしている。

喫煙行動も一種の社会的ステイタスを示したり，社交術であったり，ストレス解消であったりの意味内容をもつ。また，喫煙行動それ自体が必ずしも「悪」と考えられるような米国や日本と同じ社会環境にはないし,「嫌煙権運動」など観察されない。副流煙の影響や身体への悪影響や肺癌痢患率への懸念も一般的ではないし，説得性があるとは思えない。平均寿命が相当低く（男女とも50才代），それも女性のそれの方が低い状態であるから，感知されにくい問題かも知れない。それ故に，子どものうちに教育せねば……という論理であろう。

人口問題に悩みながら，長寿化計画は策定しえない

表4　開発掛図の教師用マニュアルの概略

A. Chart-1 : Dhywai Khasha with friends

(1)Purposes:
'Dhywai, Khasha' is playing together
Jumping & balancing abilities

(2)Words and Concepts:
Jump, Blance , Marking , Field, Brotherhood

(3)Suggested Questions:
What kinds of plays do you like in our countries ?
Do you known how you spend your free time ?
In your homes, what kinds of play do you do ?
How do we play with friendly ?

(4)Learning Activities:
Jumping and balancing with the right and left leg.
Sometimes kicking the stone.

B. Chart-2 (Working together)

(1)Purposes:
Working together (help each other to do something)

(2)Words and Concepts:
Help, work, soil, block , stone, pass

(3)Suggested Questions:
How do you build the block correctly ?
How do you pass the stone to your friends ?
How do you pass the stone to your friends safety ?

(4)Learning Activities:
Weight(load)lifting
Pass with carefully
More cooporateve, easier in loads and works

C. Chart-3 (Evaluation in group)

(1)Purposes:
Rule of the game
Evaluation

(2)Words and Concepts:
Rule,Game,Evaluation

(3)Suggested Questions
Demonstration ?
Re-demonstration ?
Discussion about rule differences !
Consider other rules !

(4)Learning Activities
Able to play in their free time.
Remember the rules each other.

D. Chart-4 (Cleaning together)

(1)Purposes:
Cleaning the classroom, house room, playground

(2)Words and Concepts
Groom, dustbin, unhealthy

(3)Suggested Questions
Do you feel something dirty , unhealty ? What time or where ?
If you do clean the dirty who can do it ?

(4)Learning Activities
Clean property
Keep ···· clean

E. Chart-5 (Packing materials together)

(1)Purposes:
Packing material and uneatable part of the fruts

(2)Words and Concepts
Material, uneatable , dustbin

(3)Suggested Questions
Proper place the unused material !
Why do you thow away the uneatable part of fruts ?

(4)Learning Activities
Sometimes it is very dangerous to thow away something

F. Chart-6 (Cleaning together)

(1)Purposes:
Cleaning and reprocessing

(2)Words and Concepts:
Processing, garbage place, bucket

(3)Suggested Questions:
Do you place the unused things property ?
How do you think in the dirty classroom ?
How do you think in the clean classroom ?

(4)Learning Activities
Participation in cleaning

G. Chart-7 (Population education, Family plan)

(1)Purposes:
More population, need a number of things for more people

(2)Words and Concepts:
Number
Happy or unhappy
Compare with ····

(3)Suggested Questions
How large is your family ?
When do you think happy or unhappy ?
Why can't we have a better life ?
Compare your house with your friends' house ?

(4)Learning Activities
Showing the picture

H. Chart-8 (No smoking)

(1)Purposes:
No smoking , Stop the habit of smoking each other

(2)Words and Concepts
Smoking
Bad for the health

(3)Suggested Questions
Bad smell or good smell ?
Coughing ?
Beautiful or not beautiful ?

(4)Learning Activities
Showing the picture

I. Chart-9 : Dojiball (Shoot game)

(1)Purposes:
To avoid throwing balls from out of circle (Box,boxes)
Throwing and catching
Watching the ball
Pass and shoot in the same group

(2)Words and Concepts
Brotherhood
Throwing exactly
Reporting together

(3)Suggested Questions:
How should we throw the ball to get a point hit timingly ?
Who should we pass ?
Which direction we throw the ball now ?
Where does the opposite group get together ?

(4)Learning Activities:
To learn rule and position (position working)
To develop individual skill of throwing and catching a ball
To learn the rule of dojiball

J. Chart-10 :(5 MEN SOCCER)

(1)Purposes:
To have physical exersize, fun and brotherhood through friendly competition

(2)Words and Concepts:
Each side consists of 5 players
The purpose of playing is to get goals
Fouls should be avoided

(3)Suggested Questions:
How should we play clean soccer?
Why should we avoid fouls ?

(4)Learning Activities:
Competition in game does not mean enemy.
Opposite group(team) is not an enemy.
All of us are brothers
For pleasure's sake
Simple rules

K. Chart-11 (Normal Soccer)

(1)Purposes:
To have physical exersize, fun and brotherhood through friendly competition

(2)Words and Concepts:
Each side consists of 11 players
The purpose of playing is to get goals
Fouls should be avoided

(3)Suggested Questions:
How should we play clean soccer ?
Why should we avoid fouls ?

(4)Learning Activities:
Competition in game does not mean enemy.
All of us are brothers
For pleasure's sake
To learn the normal rules

L. Chart-12 (Kabadi)

(1)Purposes:
To have physical exersize
To learn discipline
Brotherhood
To learn that unity is strength(team work)

(2)Words and Concepts:
Each side consits of 9 players
A player is out if he is caught in his oppostion's court

(3)Suggested Questions:
How should we play KABADI
Why should we be careful in not to hurt others ?

(4)Learning Activities
Discipline is to be practised
We play for fun and exercise

と思うし，初等学校への「家族計画」も現時点ではわれわれサイドに抵抗があった。宗教がらみで複雑な故に「栄養・食物」も問題にできなかった。何もかもが整理しえないままながら，本当は「何が幸福か？」と考えさせられるプロジェクトであったような気がしてならない。

おわりに

今回の識字教材開発は，組織的問題も資金の問題もあり，１カ国１人の参加で「環境自然（Nature)」「環境社会（Social)」「算数（Arithmtic)」「健康体育」の４つの領域に日本の４領域参加者と７カ国が分担制をとってきた。

共通版（英語表示版）は７カ国すべてが持ち帰り，それどれ試験的に使用されることになっている。そして，参加各国で使用してみて，さらにその反省会をもって改めて再開発し，プロジェクトは終了する予定とされている。

この度の共同事業は，基本的にわれわれの英会話能力の限界と情報不足になやまされた。通訳の留学生にも助けられたが，彼らが入れ替わることと，地方の初等学校１～２年生のイメージが確定できなかった反省は大きい。あるいは各国代表者にも，地方の隅々までは把握しえていない側面すら感じられた。従って今回，彼ら代表者がもち帰った教材掛図，コーティグで強化されたカラー印刷の「掛図」は，どこかの倉庫に眠っている可能性すら感じる。学校教育学部美術科の学生や院生達の協力にもかかわらず，「掛図」そのものの意図が参加者に正確に把握されているかどうかも明確ではない。絵画表現形式にも参加各国の文化や教育状況が反映されていると思われるからである。何故なら，後にバングラデッシュ代表は自国で作成し直した「掛図」のセットを委員会宛に送ってきたからでもある。

広島大学ユネスコ識字教材開発委員会事務局は，先のアジア７カ国のすべてに対してではないが，現地における開発教材の使われ方の現地調査を指示してきた。目下ネパールとの交渉中が，成立した段階である。次のような諸点について，さらに学習と調査をすすめたい。

1）ネパール全域は無理であろうが，教育統計地区のうちの１地区の情報を徹底して得る。
2）１）の情報とカトマンズ地域との比較
3）どのような必要性と何を契機にして「健康」「体育」の領域は定着しうるか，定着のプロセスと，発展の契機となる事象を，長期的に確認していく。
4）教育課程や教材の開発の基本的・具体的条件の解明を試みる。

文　献

1）松岡重信：ネパールの体育教育の現状（Ⅰ），中国四国教育学会教育学研究紀要，第37巻　第２部，399－404，1991
2）松岡重信：ネパールの体育教育の現状（Ⅱ），中国四国教育学会教育学研究紀要，第38巻　第２部，349－354，1992
3）ユネスコ編（永井道雄監訳）：ユネスコ文化統計年鑑1992，pp.52－53，原書房，1993